

救命艇に革新をもたらし続ける、 信貴造船所。

1957年国内初のFRP製救命艇を試作して以来、全世界に数千隻ものFRP製救命艇を届けてまいりました。
さらに2009年には自社設計思想のもと開発した新型フリーフォール救命艇FEL59(艇長5.9m 定員25人)の
落下実験を成功させ納入を開始するなど、常に業界を牽引してまいりました。
これからも、技術の研鑽を積み、革新的な救命艇を建造してまいります。

会社概要

株式会社 信貴造船所
本社事務所
〒590-0831
大阪府堺市堺区出島西町3番36
TEL:072-241-2033 FAX:072-244-1728
Web:<http://www.shigi-sb.co.jp>
E-mail:info@shigi-sb.co.jp



創業:1934年
資本金:1億円
営業種目:ライフボート・レスキューボート・フリーフォールランディングシステム
製造能力:約400艇/年

沿革

1934年(昭和9年)	大阪市西成区に木船工場を建造し、造船業を開始。
1942年(昭和17年)	戦時標準型木造船を建造。
1949年(昭和24年)	わが国初の鋼製、アルミ製救命艇の試作に成功。
1950年(昭和25年)	11月25日株式会社に組織変更。
1957年(昭和32年)	わが国初のFRP艇の試作に成功。
1968年(昭和43年)	わが国初の耐火救命艇の実験に成功。
1972年(昭和47年)	11月本社を堺工場に移転。
1999年(平成11年)	技術導入による自由降下式救命艇国産第1号艇を納入。
2007年(平成19年)	12月新本社工場竣工。
2008年(平成20年)	自社開発による自由降下式救命艇FEL66を開発、納入開始。
2009年(平成21年)	自社開発による自由降下式救命艇FEL59を開発、納入。



代理店



国土交通省 津波救命艇
ガイドライン承認取得

津波・水害対応型救命艇

LIFE SEEDER

ライフシーダー

津波・水害対応型救命艇。
救命艇のリーディングカンパニーから。



株式会社信貴造船所
SHIGI SHIPBUILDING CO.,LTD

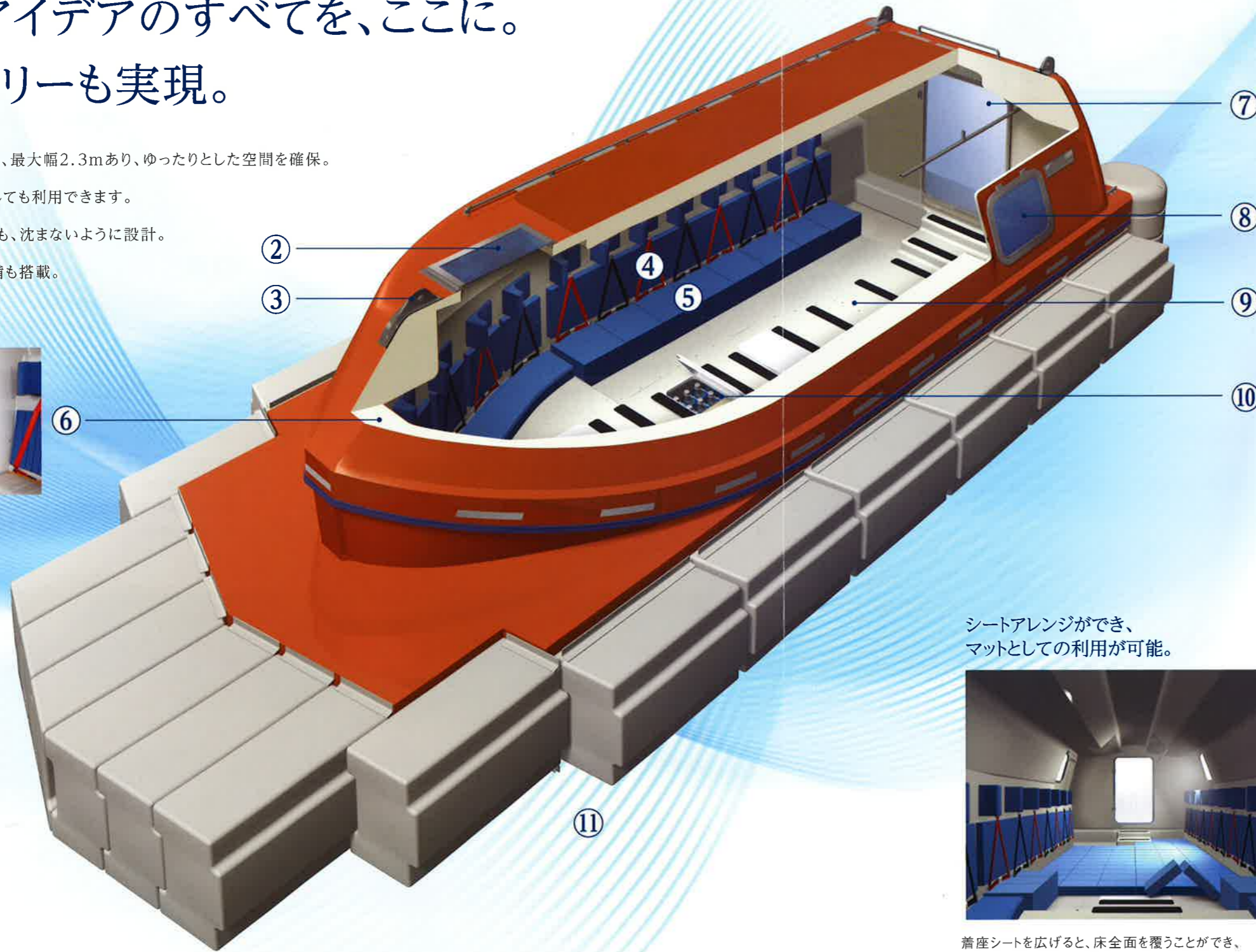
救命艇開発で培った 技術とアイデアのすべてを、ここに。 バリアフリーも実現。

艇内は最大高さ2.0m、最大幅2.3mあり、ゆったりとした空間を確保。

居住空間や倉庫等としても利用できます。

万が一、水が浸入しても、沈まないように設計。

救援を求める通信設備も搭載。



① 緩衝材・船尾緩衝材

漂流物などの衝突時の影響を和らげます。

② 船首ハッチ/採光窓

船体上部に出られるハッチ。天窗も兼ねています。

③ 曳船用アイ

ロープやフックが掛けられ、他の船による牽引が可能です。

④ シートベルト

三点止めで体をシートにしっかり固定できます。

⑤ 着座シート

EPP製で、長時間着座していても疲労しにくい。

⑥ トイレ区画

簡易トイレを設置した個室スペースを確保しました。

⑦ 船尾ハッチ/採光窓

幅が広く、車椅子や担架でも乗艇しやすい。
救命艇保管時の防犯面に配慮して
艇内が見えるよう採光窓を兼ねました。

⑧ 側面ハッチ/採光窓

予備の出入り口。
外部の様子が確認しやすい位置に設置。

⑨ フラットな床面

担架の搬入が可能で、さまざまな身体状況の
避難者を受け入れられます。

⑩ 床下収納庫

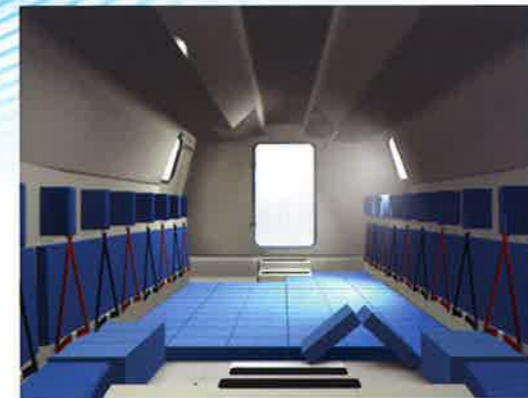
一週間分の食料や飲料水、
応急医療具などの備蓄が可能。

⑪ ビルジキール/架台

船体の揺れを抑えるための板。
救命艇保管時は「架台」にな
ります。



シートアレンジができ、
マットとしての利用が可能。



着座シートを広げると、床全面を覆うことができ、
クッション性や保温性を高めます。

船尾ドアは、地上高さ1mで
乗艇しやすい。

専用スロープも装備可能。車椅子での
乗艇にも配慮しました。



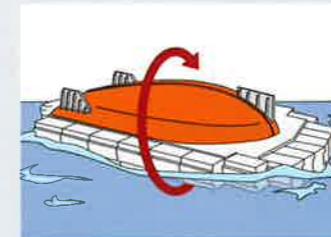
壁や漂流物に衝突しても、
破損しない。

高い強度を誇るFRPを使用。流速の
ある津波の中での衝突にも耐えます。



逆さになっても、
元に戻る。

逆さになってもすぐに戻る高い復原性。



ヘリコプターによる
救助活動に対応。

すべり止め加工が施されたフラットな
船体上部。ヘリコプターによる救助の
際の待機場所として使用できます。



津波・水害。 救命艇で、身を守る。

津波からの避難は徒歩が原則。そして、できるだけ高い場所へ迅速に逃げること。
しかし、近隣に高台やビルがなく、避難タワーなどの整備も難しい地域の住人や、
幼児や高齢者、身障者、病人等の災害時要援護者が遠方まで避難するのは困難です。

“救命艇に乗って逃れる”。

それは、私たち信貴造船所がご提案する、津波からの避難方法。

「津波・水害対応型救命艇 LIFE SEEDER」を研究・開発し、大津波を想定した
国土交通省「津波救命艇ガイドライン」を承認取得いたしました。

救命艇メーカーだからこそできる津波・水害対策をお届けします。

国土交通省「津波救命艇ガイドライン」とは。

安全性、機能性の基準、試験方法等、運用方法等を定めることにより、安全性を確保し、
円滑な普及を図ることを目的として策定されました。

よってそれを承認取得した LIFE SEEDER の安全性は、

特に①艇体の強度、②許容加速度等 が、また引渡し前には公的検査機関による
基準適合性の確認が行なわれ、安全と品質が担保されています。

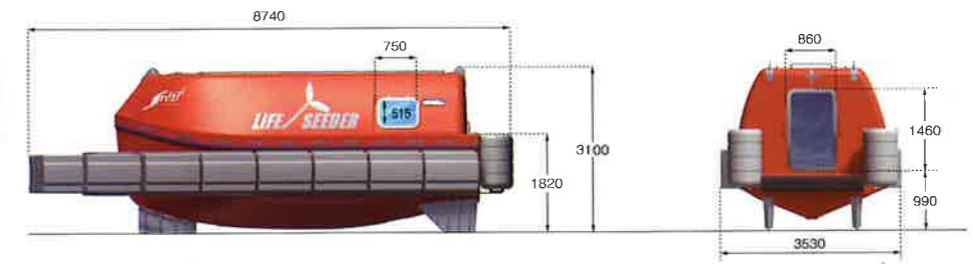
運用においては、各艇に付与された登録番号は国土交通省管理の下、
救助機関（海上保安庁、消防、警察等）に提供され、さらに救難信号の発信により
津波襲来時、迅速な救助が実現されます。

- ①艇体の強度 - 津波流速 10m/s(時速 36 km)での正面衝突、5m/s(時速 18 km)での
側面衝突においても形状を維持し、その強度が損なわないこと。
- ②許容加速度 - 10m/sでの正面衝突において艇体に作用する最大加速度 15G 以下とし、
搭乗者に対しては 1,000 以下であること。

外形

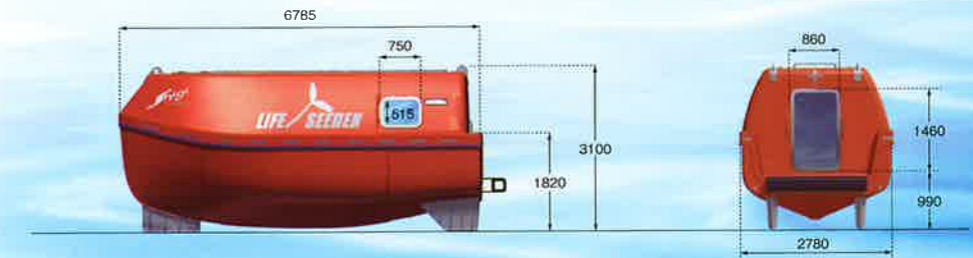
[タイプI]

国土交通省 津波救命艇
ガイドライン承認取得



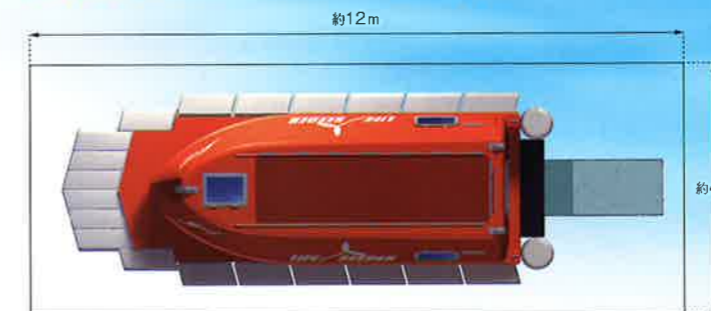
- 緩衝材を装備。
- 津波流速 10m/s 下での正面衝突時に耐える強度設計。
- 正面衝突時、許容加速度 13G。
- 衝突時の搭乗者にかかる H P C (頭部性能基準) 100 以下。

[タイプII]



- 時間の経過や地理的条件
(緩衝物となる島が対岸にあるなど)により、
津波の高さや流速が低減される地域への導入を想定。

設置場所スペース(緩衝材)



標準仕様(シートパターンにより変更あり)

	タイプI (津波救命艇ガイドライン 承認取得)	タイプII
定員	25名	
艇材質	FRP製(ガラス繊維強化プラスチック) 難燃性	
艇外寸法	長さ8.74m 幅3.53m 高さ3.1m	長さ6.79m 幅2.78m 高さ3.1m
艇内寸法	長さ6.2m 中央幅2.3m 中央高さ2m	
艇重量	3,200kg	2,600kg
便所設備	簡易トイレ設置	
標準備品	防災ずきん、ボートフック、バケツ、防水ライト、信号紅炎(発炎筒)、多機能ナイフ、 生存指圖書、応急医療具、船酔い薬、船酔い袋、簡易トイレ処理剤	

※性能向上の為、変更することがあります。

設置例

- 避難タワー・避難ビルの近くや上
- 老人福祉施設
- 幼稚園・保育園
- 校庭・公民館・公園
- 海に近い漁業施設や空港
- 海に近い個人宅の庭先
- 海水浴場や海辺の観光地

その他の使い方

- 集会所
- イベント時の救護所
- 遊具
- 防災倉庫